人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点

協力的・参加的・体験的な学習を効果的に進めている実践事例

1. 基本情報

〇都道府県名及び市町村名

富山県砺波市徳万100番地

〇学校名

砺波市立般若中学校

O学校のURL

http://www.tym.ed.jp/sc309/

2. 学校紹介

〇学級数

【通常の学級】1学年2学級、2学年1学級、3学年1学級

【特別支援学級】1学級 【合計】5学級

〇児童生徒数

【全生徒数】104人(平成24年11月1日現在)

(内訳:1年生41人、2年生35人、3年生28人)

○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【学校教育目標】

- ・意欲的に学び、考える生徒
- ・心豊かで、たくましく活動する生徒
- ・健康で、安全に生活する生徒

【本年度重点目標】

笑顔で取り組み、学校と地域社会に元気を

合言葉: みんな笑顔で、みんなに元気を

【重点事項】

・関わり合い、互いに高め合って学ぶ生徒 (学び合いに)

・ボランティア精神のある生徒 (豊かな心に)

・健康で安全な生活を、互いに大切にする生徒 (豊かな生活に)

【人権教育に関する目標】

互いの存在を尊重し、共に高め合おうとする心と態度を育てる。

- ・相手の痛みを自分の痛みと考え、互いの存在を大切にする心を耕す。
- ・互いの違いやよさを認め合い、励まし助け合う温かい人間関係づくりに努める。
- ・人間としての尊厳を踏みにじる行為は許されないという毅然とした態度で臨み、 差別や偏見を進んで解消していこうとする態度を育てる。
- ・積極的なボランティア活動を通して、相手をいたわる優しい気持ちや、地域の 一員として役立っているという自己有用感を育てる。

〇人権教育にかかる取組の全体概要

【研究主題】 互いの存在を尊重し、共に高め合おうとする生徒の育成

- ボランティア活動の推進を通して -

【研究の重点】

- ①教育活動全体を通した人権教育の推進
 - ・行事や体験活動との関連を図り、道徳の時間を要とした道徳教育の充実を目指す。
 - ・自他の考えのよさに気付き、認め合い支え合う人間関係を築けるよう、授業での「学び合い」「関わり合い」を大切にする。
 - ・生徒の思いを大切にした学年経営、学級経営を充実させ、温かい人間関係を築 く。
- ②体験活動を通した豊かな心を育む活動の推進
 - ・生徒会を中心とした「生徒の呼びかけに生徒が応じる」自主的なボランティア 活動を推進する。
 - ・富山県立となみ東支援学校等との交流を充実し、相手の立場に立って考えたり 行動したりする思いやりの心を育てる。
 - ・砺波市立庄東小学校と連携した地域でのボランティア活動を推進し、地域への 感謝の気持ちを伝える心を育む。
- ③家庭や地域社会との連携
 - ・地域行事へ生徒が自発的に参加できるよう部活動等の活動時間を配慮し、校外 班を通じて声をかけ合う体制を整える。
 - PTA行事を通して家庭との連携を密にし、親子が触れ合う場を設定する。
 - ・授業に地域の方を招き、専門的な指導をいただき、地域への理解と愛着を高め る。

④講演会

・様々な立場の方を招き、生徒、教員、保護者の立場で、人権について考える場 を設定する。また、ボランティア活動を通して人権教育を進めるに当たっての 留意点や意義について学ぶ。

3. 特色ある実践事例の内容

- ◇重点1 教育活動全体を通した人権教育の推進
 - 全教育活動の中での道徳教育を推進し、生徒の自発的な行動を促す取組
- ①体験と関連付けた道徳の授業
 - ・県立となみ東支援学校との交流学習と関連付けた授業
 - 学級の諸問題と関連付けた授業
 - ・部活動と関連付けた授業
- ②学年活動、学級活動における取組
 - ・生徒による学年レクリエーションの企画・運営
 - ・毎週水曜日の朝の会でのミニ討論会
- ◇重点2 体験活動を通した豊かな心を育む活動の推進

①生徒の呼びかけに生徒が応じるボランティア

<生徒会目標 ボランティアで地域に感謝を伝え、あいさつで笑顔を届ける> これまでの実践を継続しながら、生徒の願いを捉えた、より充実感がもてる取組

ア地域の活動

- ・別所の郷 山菜祭り(5月)
- ・頼成の森 花しょうぶ祭り(6月)
- ・東般若サマーフェスティバル(8月)
- ・コカ・コーラサマーフェスティバル (8月)
- ・地域に感謝届け隊(9月)
- •般若地区敬老会(9月)
- ・夢の平スキー場 コスモスウオッチング (10月)

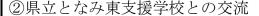


ペットボトルキャップ回収

イ 校内のボランティア活動

- ・集めMONDAY (マンデー) 生徒玄関に透明回収BOXを設置してのペットボトルキャップ回収、アルミ缶回収(年間)
- グラウンド石拾いボランティア(9月)
- ・落ち葉狩りボランティア (11月)
- ・除雪ボランティア(1月~2月)
- ウ ボランティア道場
 - ・ボランティア活動に取り組むと階級が上がる 掲示板を工夫

前期:2級~師範編後期:冠位十二階編



30年以上にわたる交流を通して、人権意識を高める取組

ア 第1学年 総合的な学習の時間における交流学習

- ・目指す生徒の姿"相手の立場を尊重し、笑顔でやさしく声かけができる。"
- ・年3回、互いの学校を訪問し、共にレクリエーションを行う。
- イ 運動会、学習発表会における交流
 - ・県立となみ東支援学校運動祭への協力 (準備、片付け、アナウンス、応援等)
 - ・本校運動会への招待(交流競技)
- ・杉の子祭(県立となみ東支援学校学習発表会)と本校学習発表会の作品交流

③庄東小学校と連携した地域での活動等

ア あいさつ運動

- ・年2回、小学生と一緒に各地区5か所で実施
- イ 校外班清掃活動
 - ・夏休み中に、小学生と一緒に校外班ごとに実施
- ウ 小中合同活動
 - ・小学6年生を本校に招待し、年2回、音楽と体育の活動を中学生が企画・運営し、一緒に活動する。



ボランティア道場

◇重点3 家庭や地域社会との連携

地域の行事に生徒が自主的に参加できる配慮、親子が触れ合う場の設定、地域 社会と連携した取組

①地域の活動

- ア 庄東地区生徒指導連絡協議会
 - ・年2回実施 庄東地区の小学生、中学生の健全育成をねらいとして、4地区の自治振興会長、小中学校PTA会長、少年補導員、民生委員・児童委員、保護司、駐在所駐在官等で組織されている。
- イ 子どもの集い(公民館)、地区民運動会
- ウ 「ファーストブックの会」へ絵本バッグを贈呈
- ②PTA行事
 - ア PTA親子奉仕活動 夏休み最後の日曜日
 - ・親子でグラウンド側溝の土砂上げや学校周辺の除草等を行う。
 - イ 親子でトライ 11月下旬
 - ・地域の方を講師に迎え、中華まんコース、絵手紙コース、ビーチボールコース等、8コースに分かれて、親子が一緒に活動する。
- ③地域人材の活用
 - ア 第1学年 総合的な学習の時間 高齢者福祉コース
 - ・砺波市社会福祉協議会より2名の講師を招き、体験活動を行う。
 - イ 第3学年 技術・家庭科 野菜作り
 - ・農業に造詣の深い地域の方を講師に招き、土作りへのアドバイスをいただく。
- ◇重点4 講演会
- ①7月21日 砺波市社会福祉協議会 畑 幸子先生(生徒、教員対象) 「思いやりをかたちにしよう 自分たちでできるボランティア活動を考える」
- ②8月30日 上越教育大学大学院教授 梅野 正信先生(保護者、教員対象) 「人権感覚を育成する取組の工夫」
- ③10月13日 富山福祉短期大学教授 鷹西 恒先生(生徒、教員対象) 「ポジティブに生きることの大切さ」
- ④12月3日 上越教育大学准教授 白木 みどり先生(保護者、教員対象) 「キャリア教育の視点を取り入れた人権教育」

4. 実践事例の実績、実施による効果

- ◇富山県教育委員会より発行されている「人権教育指導のために」を参考に項目を 設定し、生徒の人権意識をチェックした。
- ◇実施時期 生徒 1回目 5月中旬 2回目 11月中旬教師 1回目 6月中旬 2回目 12月中旬
- ◇生徒の人権意識チェックの結果と考察
 - ・4 「ごめんなさい」、11 「メールやブログ」の項目は、数値上昇。 生徒会の活動や行事、部活動等を通して先輩から後輩へ受け継がれる思いやり の心や礼儀正しさが定着する方向にあると考えられる。

- ・8 「友達を決めつける」、10 「悪口を言わない」の項目で数値下降。 友達関係の固定化が影響しているとも考えられる。身近すぎて人権への配慮が 希薄になっているおそれがあるので、授業等で指導する必要がある。
- 9 「仲間はずれ」の項目で数値 0 。本校生徒の仲のよさが表れていると考えられる。

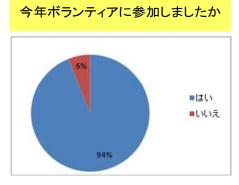
◇人権意識をチェックしよう。

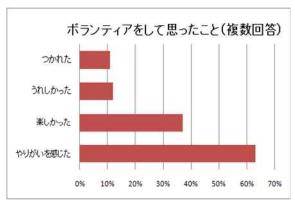
			1学期	
全校		0	0	Δ
1	友達をその人がいやがる「あだ名」で呼んだり、「呼び捨て」にしていませんか。	23	55	27
2	知っている人やお世話になっている人に会ったら、あいさつをしていますか。	56	48	1
3	人に助けてもらったとき、うれしさを「ありがとう」の感謝の言葉で伝えていますか。	62	41	2
4	人に迷惑をかけたとき、素直に「ごめんなさい」「すみません」と言えますか。	45	56	4
5	「うざい」「きもい」「むかつく」など、人がいやがる言葉をつかっていませんか。	20	64	21
6	みんなで使う物を壊したり、場を汚したりしないように気をつけていますか。	65	38	2
7	失敗や間違いをした人を冷やかしていませんか。	46	56	3
8	「また・・・か」「いつも・・・だ」と友達を決めつけていませんか。	43	55	7
9	友達を仲間はずれにしていませんか。	85	20	0
10	友達の悪口を言わないようにしていますか。	39	58	8
11	メールやブログ等に友達の悪口や中傷を書き込んでいませんか。	69	33	3
12	むやみに同じ人を追いかけ回したり、肩をむりやり組んだりしていませんか	65	29	11

2学期					
0	0	Δ			
24	50	34			
56	40	11			
68	36	3			
51	50	6	î		
18	61	28			
62	44	1			
44	57	6			
29	59	19	ļ		
71	36	0	☆		
23	70	14	ļ		
82	21	4	1		
66	36	5			

◇生徒会アンケートより

ボランティア参加率





・ほとんどの生徒が一度は自ら進んでボランティアに参加し、6割以上の生徒がやりがいを感じたと答えています。

ボランティアをして自分が変わったこと

- ・思いやりの気持ちが強くなった。
- ・地域の方々に役立とうと心がけるようになった。
- きびきびと行動できるようになった。
- ・普段の生活からもボランティアをしようと思った。
- ・人に優しく接することができるようになった。
- ・他のところでも募金をするようになった。

5. 実践事例についての評価

【成果】

- ① 教育活動全体を通した人権教育の推進
 - ・行事や体験活動との関連を図った道徳の授業を行うことにより、自分自身の問題として振り返ったり考えたりして、新たな視点をもつことができた。普段の生活でも、相手の立場に配慮した言動をとれる生徒が増えた。
 - ・学び合い、関わり合いを大切に授業を進めることで、友達の話を最後まで聞こ う、友達の考えを大切にしようという互いを認め合う気持ちが高まった。
 - ・生徒自身の手で企画・実行・反省を繰り返す中で、自分だけでなく、周りの友達の気持ちにも配慮が必要であることに気付き、協力して活動する姿が増えた。
- ② 体験活動を通した豊かな心を育む活動の推進
 - ・地域の方から感謝の言葉や励ましの言葉をいただき、誰かのために役立つこと の喜びや充実感を味わい、次の活動への意欲が高まった。
 - ・特別支援学校の生徒との交流を通して、互いの違いやよさを認め合うこと、相手の立場に立って考えたり、行動したりすることの大切さを学んだ。特別扱いをするのではなく、少しの配慮や声かけで、共に楽しく活動できることを学んだ。
 - ・小学生を迎え入れ、先輩として取るべき言動について考えることで、相手の不 安や心配に目を向けることができた。
- ③ 家庭や地域社会との連携
 - ・地域にはたくさんの行事があるが、それを支える人が少なくなり、寂しい思いを抱いている人が多い。しかし、生徒が地域の行事に積極的に参加することによって、地域に活気があふれるようになった。地域の方からは、感謝の言葉を多くいただき、これまで以上に温かい援助をいただけるようになった。また、生徒たちは、幅広い年齢層の方と接することにより、思いやりの心や優しい言葉かけの大切さに気づくことができた。
 - ・中学生の子どもと親が接する時間は少なくなりがちであるが、親子で楽しく時

間を過ごすことによって、互いのよさや成長等に新たな気付きが生まれた。

・生徒たちは、自分が暮らす地域のエキスパートの存在に気付き、地域への愛着 が深まり、そこに暮らす自分自身に対しても誇りをもつことができた。

④ 講演会

- ・生徒たちは講師の方の体験に基づいた話を聞き、思いやりや感謝の気持ちの大切さに改めて気づくことができた。自分にできることを探し、勇気をもって踏み出そうとする気持ちが、普段のボランティア活動への積極的な参加に結び付いている。
- ・教員は、ボランティア活動を通して人権教育を進める上での留意点や意義について再確認することができた。生徒と共に、これまでの活動を見直し、改善し、 継続していくことに自信をもつことができた。
- ・保護者は、人権という新たな視点で子どもの成長を見守ることができるように なった。子どもを一人の人間として尊重し、援助する大人としての在り方に思 いを巡らせ、何度もうなずく姿がみられた。

⑤ 実践全体を通して

・本校で年々自主的なボランティア活動が盛んになってきたのは、伝統の力が大きい。生徒総会で、毎回、ボランティアへの取組を議題として取り上げ、熱く議論を交わす中で、意識が向上してきた。また、伝統を守り育てるためには、先輩の存在が大きい。毎年、年度当初の1年生はボランティアへの参加意識は高くない。そこで、朝の会や帰りの会で生徒会執行部や委員長等が1年生向けに内容を説明したり、やりがいを伝えたりする。また、前年度の活動の様子の写真を掲示したり、ホワイトボードで参加を呼びかけたりして、一緒にやろうという雰囲気を盛り上げる。少しでも参加者が増えるようにネーミング(地域に感謝届け隊、紅葉狩りならぬ落ち葉狩り、集めMONDAY等)にも趣向を凝らしている。ボランティアを実施した後は、すぐにその時の写真やコメントを掲示し、がんばっている様子を全校に伝える。これらの活動を地道に続けることで、1年生も徐々に参加者が増えていく。2、3年生になると、「般中といえばボランティア」という誇りをもってボランティアに取り組む姿勢ができてくる。

【今後の課題】

- ・人とのつながりを大切にしながら、これまでの活動をマンネリ化させず、常に 生徒自身のアイディアを取り入れて続けていく工夫が必要である。
- ・となみ東支援学校との交流は長い歴史をもつが、配慮事項等が毎年変わる場合 がある。教師同士がより綿密な情報交換を行うことで、一人一人の思いを大切に し、思いやりの心を深める交流になるよう配慮する必要がある。

【保護者や地域住民からの反応】

- ・子どもを見ていると、数年前は「ボランティアに行かんなん(ボランティアに 行かなければならない)。」と言っていたが、最近は「ボランティアに行こう。」 と言うようになった。
- ・地域の方からは感謝の言葉をいただき、中学生の活躍が地域の活気につながっ

ているとの声を多く聞くようになった。

・地区民運動会の開会の挨拶で、「中学生は運動会の運営にはなくてはならない存在である。ありがとう。」という言葉をいただいた。

【 人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント 】

砺波市立般若中学校

人権教育を展開する際には、人権教育の目標と各教科等の目標やねらいとの関連を明確にする必要がある。本事例では、内面的な資質・能力を育成する道徳の時間の学習と行事や体験活動との関連づけが図られ、教育活動全体を通して人権教育が進められている。このことにより、生徒には、相手のことを思いやる心情や、互いの考えを受け止め認め合おうとする態度や技能の育成が図られている。

人権教育の取組は、家庭や地域など、多くの人々に支えられてこそ、その効果を発揮することができる。本事例では、中学生の発達段階を踏まえ、生徒会が中心となってボランティア活動を展開し、様々な人との関わりを広げ、成果を上げている。ボランティア活動の内容、PTAを含む家庭や地域との連携、異校種との交流等の方策が、多数掲載されている。人権教育に関わる取組を広く展開することを検討する際に、参考となる事例である。